

# 可視化の現在 立会いの未来

## 「あなたもできる! 弁護士立会い」研修報告

取調べの可視化・弁護士立会大阪本部 委員 片山 和成

大阪弁護士会においては、本年12月より、準抗告・手錠腰縄に続く連続強化運動月間第3弾として、「弁護士立会強化月間」が始まる。その際に、会員の皆様にどのような弁護士活動を展開するべきか、その知見を共有するため、「あなたもできる! 弁護士立会い」研修が行われた。

### 1. 神谷慎一弁護士(岐阜県)の基調講演

これまで多数の立会事例を経験している神谷弁護士より、立会いを実現させた複数の事例のご報告があった。神谷弁護士は、弁護士立会いと任意聴取との関係を指摘した名古屋地裁平成20年10月27日決定(季刊刑事弁護58号も参照)に触発され、弁護士立会いを認めようとしないうところか、立会要望を「捜査妨害」とまで述べた捜査機関と正面から議論し、幾度も抗議を重ね、実に延べ31回に及ぶ取調べや事情聴取に立ち会った。

神谷弁護士からは、このような豊富な経験を共有いただく一方で、最後は「小難しいことはさておき、とにかくやってみよう!」という力強いエールを送っていただいた。

### 2. 大阪での(準)立会い実践報告

次に、当会若手会員による立会い実践報告が行われた。既刊の「在宅事件における立会い実践マニュアル」(2019年12月発行。以下「在宅事件立会いマニュアル」という。)にもあるとおり、捜査機関は在宅事件においてすら、弁護士立会いを拒絶する現状にある。その際に、逮捕を避けつつ、立会類似の効果を得るために、捜査機関に同行し、取調室の前で待機して随時アドバイスをする、いわゆる「準立会い」が在宅事件弁護において広まりを見せている。本研修では、このような「準立会い」を複数経験した会員から、その手法と効果について、他会会員の成果も含めて以下のような報告がされた。

- 準立会いについては、求めればさほどの抵抗なく認められるため、既に15件以上の準立会いを経験しているとの報告
  - 包括的に黙秘権を行使するべく準立会いを求め、その意思表示をし、5分で取調べを終了した事例(愛知県弁護士会金岡繁裕弁護士の事例)
  - 一発問ごとの取調室からの退出を求めて、取調べの主導権を弁護士が握った事例
  - 立会いを求めることで、捜査機関と処分見通しについて議論ができ、不起訴処分を獲得した事例
- いずれの報告も工夫が重ねられるとともに、準立会い自体は決してハードルの高くない弁護士活動であることがよくわかる報告であった。

### 3. 笹倉教授による「世界からみた日本の状況」ミニ講演

続いて、甲南大学の笹倉香奈教授から、弁護士立会いに関する諸外国との比較についてご講演いただいた。弁護士立会いは「グローバル・ミニマム・スタンダード」であること、それが認められてない日本の特異さがあらためて浮き彫りになった。

これから立会強化運動に向かう我々には力強いエールであった。

### 4. 寸劇を交えた在宅事件立会いマニュアル解説「黙秘編」

既刊の在宅事件立会いマニュアルにおいては、立会いの実現方法と共に、準立会いの実現方法も紹介して

いる。しかし、そこでは依頼者が供述する場合の条件設定等についての紹介に止まっていた。

そこで、本研修ではさらに進んで、依頼者が黙秘権を行使する場面について、どのように準立会いが実現されるべきかについて、寸劇とディスカッションを交えながら検討した。

準立会いの対応は事件や依頼者によってあるべき姿は変わってくるが、本来的に任意である在宅取調べの主導権を、捜査機関ではなく、被疑者・弁護人の側で主体的に持つことを意識して、数分での中断や一問毎の中断など、様々な手法が検討された。

## 5. 研修を終えて

いわゆる準立会いについては、決して難しい弁護活動ではなく、「あなたにもできる!」「とにかくやってみよう!」という気持ちにさせる、熱気のこもった研修であった。これまで取調べは捜査機関がするものであり、主導権は捜査機関にあることを前提とし続けていた実務も、(準)立会いを通じて変えていくことができるという確信を持つことができた。

各会員におかれましても、取調べへの立会強化月間に向けて、是非弁護活動の参考にさせていただきたい。

## eラーニング研修のお品書き ～eラーニングをもっと活用して弁護士力を鍛えよう!～



ていた研修の多くが中止や延期となりました。会員の皆様には是非eラーニングサイトをご活用いただき、『弁護士力を鍛えて』いただきますよう、ご案内申し上げます。

研修センター運営委員会では、当会eラーニングサイトの研修コンテンツを体系的に整理した「eラーニング研修のお品書き」を作成いたしました。

eラーニングサイトではPDFのお品書きを掲載しており、このPDFの研修名をクリックしていただくと各研修の掲載ページにリンクするようになっております。

また、冊子も地下レターケースにて配布しております。

新型コロナウイルス感染症のため、本年度は会館で予定され

